

明治以降の新聞記事に見られる 広場等公共空間の変遷

堀川 萌¹・萩原 知子²・福井 恒明³

¹ 非会員 三井化学東セロ株式会社 (〒365-0054 埼玉県鴻巣市大間 2-7-33)
E-mail: Moe.Horikawa@mitsuichemicals.com

² 学生会員 修士 (工) 東京大学大学院博士課程 東京大学大学院工学系研究科社会基盤
学専攻 (〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1)
E-mail: ogiwara@keikan.t.u-tokyo.ac.jp

³ 正会員 博士 (工) 法政大学教授 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科
(〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1)
E-mail: fukui@hosei.ac.jp

近年、公共空間を巡る価値観が多様化する中、公共空間の設計・管理に際して、苦情や事件・事故等の回避に一番に重点が置かれる傾向にある。明治以降の近代的都市計画の中で、日本人がどのような公共空間を体験し、公共空間をどう考えてきたのかを知ることで、公共空間に対する価値観の可能性や、公共空間の在り方を見直すことが出来ると考える。本研究では、各時代の状況が反映されているメディアとして新聞記事を対象とし、「広場」「公園」「空地」「歩行者天国」に関して書かれた記事内容の言説を分析する。結果、明治から現代までの各空間の状況や使われ方、イメージの変遷を明らかにした。また、4空間の変遷を比較することで、各空間の独自性や、空間同士の関係性を見出した。

キーワード: 公共空間, 広場, 公園, 空地, 歩行者天国, 新聞記事, 価値観, イメージ, 変遷

1. はじめに

(1) 背景・目的

近年我が国では、「公共空間はどうあるべきか」、或いは「公共空間において人々はどうあるべきか」といった意見が様々な個人の価値観で多様化し、空間の設計者、ないし、管理者と空間の利用者との対立や、利用者同士の対立、クレーム問題、マナー問題が絶えず発生している。そのため、公共空間の設計・管理に際して依って立つべき価値観や目指すべき空間の在り方が曖昧になり、結果、広場や公園などの公共空間では、苦情や事件・事故等をなるべく起こさないよう、安全管理のし易さに重点が置かれ、利用者の行動や活用の幅が制限される傾向にある¹⁾。今後公共空間の設計・管理を考える上で、明治以降の近代的都市計画の中で、日本人はどのような公共空間を体験し、公共空間をどう考えてきたのかを知ることが重要である。

そこで本研究では、明治から現代までの公共空間の状況や使われ方、イメージの変遷を明らかにすることを目的とする。

(2) 既往研究

公共空間の状況や使われ方、イメージなどの変化・変遷に関する研究は、全般的に公共空間を対象にしたものから、広場や公園といった特定の公共空間を対象としたもの、空間の設計・計画から、空間イメージに至るまで、かなりの蓄積がある。

こうした変遷に関する研究を、変遷の対象に着目して分類すると、

- ①計画思想や計画方針について時代変遷を追い、行政・設計者、制度側が依拠する価値観の変化を見るもの。
 - ②各種法令の時代変遷を追い、管理規則や制限の観点から、管理側と利用者側相互の価値観の変化を見るもの。
 - ③空間の分布状態や形態の時代的变化を追い、利用実態と空間状態の関係性から、空間の位置づけ・役割を読み取るもの。
 - ④空間の利用のされ方・使われ方の時代的变化を追うことで、空間の社会的役割を見るもの。
- の4つに大別できる。

①は、吉田ら²⁾による明治から現代までの駅前広場

空間の設計・設計思想の変遷を見たものや、杉田ら³⁾による市区改正期から戦災復興期までの公園計画標準の歴史の変遷を見たもの、齋藤ら⁴⁾による1968年から2007年までの公開空地・有効空地の計画コンセプトの分類と変遷を見たもの、②は、金子⁵⁾による明治期以前から昭和までの都市公園の管理運営制度の変遷とその特色を見たもの、③は、平松⁶⁾や中村ら⁷⁾による地方都市の中心市街地にある空地の変遷と形成過程を見たもの、④は、西山⁸⁾が1960年代から2000年代までの上野公園について、大竹ら⁹⁾が1903年から2016年までの日比谷公園について、いずれも新聞記事の言説から変遷を見たものなどが、それぞれ有用である。

これらの課題として、

- ・対象空間については、駅前広場や限定されたエリア内ないし特定の場所についての個別事例が多いため、公共空間全体を見て、かつ複数比較する必要があること
 - ・対象期間についても、個別の場所ごとに扱う期間がまちまちになるので、明治以降から現代までの長いスパンで変遷を観察する必要があること
 - ・焦点として、管理側・利用者側相互の動向が分かる必要があること
- が言え、本研究では、複数の公共空間の計画・設計・空間利用の変遷を長期間見ることとする。

(3)方法

本研究では、社会的関心や時代背景を把握でき、各時代の状況が反映されているメディアとして新聞記事に着目し、広場等公共空間に関して書かれた記事内容の言説を分析する。その際、公共空間の中でも、利用用途に多様性を持ち、不特定多数の利用者に向け計画・設計された空間として、「広場」「公園」「空地」「歩行者天国」の4空間を取り上げ、これら4つのキーワードを含む記事の内容を分析する。

2. 調査

(1)新聞記事調査

明治期に発刊された全国紙である朝日新聞¹⁰⁾を用いる。朝日新聞縮刷版(1879年1月1日-1999年)と朝日新聞(2000年-2015年12月31日)において上記の4ワードで記事検索をしたのち、海外および東京以外の公共空間に関する記事や、空間利用に直接関係ない記事は除外し、広場) 353件、「公園」3615件、「空地」102件、「歩行者天国」113件、総計4183件の調査対象記事を抽出した(表1)。

表1：各ワードの全記事数と対象記事数

年代	「広場」		「公園」		「空地」		「歩行者天国」	
	全記事数	対象記事数	全記事数	対象記事数	全記事数	対象記事数	全記事数	対象記事数
1870	0	0	28	22	0	0	0	0
1880	1	0	94	56	0	0	0	0
1890	0	0	293	206	1	1	0	0
1900	3	2	766	490	2	2	0	0
1910	7	4	456	237	5	3	0	0
1920	16	9	674	437	18	12	0	0
1930	56	32	455	246	18	7	0	0
1940	30	17	111	64	79	47	0	0
1950	91	51	272	161	18	10	0	0
1960	167	101	784	421	21	11	1	1
1970	293	70	835	367	15	7	110	92
1980	140	33	701	346	7	2	11	9
1990	421	25	746	331	4	0	11	8
2000	78	4	427	170	0	0	3	3
2010	64	5	194	61	0	0	1	0
計	1367	353	6836	3615	188	102	137	113
総対象記事数	4183							

(2)記事内容の整理と分類

対象記事から、時代的傾向や、キーワード間の相違点を読み取るために、各記事を話題別に整理・分類する。

具体的には、

- ①「各空間を作ったり変えたりする時に、その空間がどう考えられているか」を知るための、『空間の建築計画』や『空間内に何か新築』といった話題
- ②「各空間を活用する時に、その空間がどう考えられ、何に活用されているか」を知るための、『行事・催し物』や『集会・デモ』、『緑化・自然再生・美化』、『栽培・耕作』といった話題

表2：各ワードの話題の項目一覧

読み取れる事 話題 キーワード	①空間をつくり変えたりする時に どう考えられているか		②空間を活用するときに どう考えられているか				③ネガティブなことへの対応姿勢から どう考えられているか				④空間の見方 や考え方	⑤その他
	計画系	変更系	行事・催し物系	集会・デモ系	緑化等環境配慮系	栽培・耕作	事件・事故系	規制・取締り系	安全・管理系	中止・廃止	観念・意見系	その他
広場	■広場計画・建設・指定・拡張・改修	■広場に何か新築・増築・建築計画	■行事・催し物	■集会・デモ	■緑化・自然再生・美化	■栽培・耕作	■事件・事故・災害・公害	■規制・取締り・注意喚起	■安全・管理系	■中止・廃止	■広場観念・意見	■その他
公園	■公園計画・設置・建設・指定・拡張・改修	■公園に何か新築・増築・建築計画	■皇室関連行事 ■政治・国家・軍事関連行事 ■文化・芸術・娯楽・スポーツ関連行事 ■その他行事	■集会・デモ	■緑化・自然再生・美化	■栽培・耕作	■事件・事故・災害・公害	■規制・取締り・注意喚起	■安全・管理・防犯	■中止・廃止	■公園観念・意見	■その他
空地	■空地計画・設置・指定・建設	■空地に何か新築・増築・建築計画	■行事・催し物			■栽培・耕作	■事件・事故・災害				■空地観念・意見	■その他
歩行者天国	■歩行者天国実施・計画		■行事・催し物				■事件・事故	■規制・取締り		■歩行者天国中止・廃止	■歩行者天国観念・意見	■その他

の広場についても、美濃部知事による「広場と青空の東京」という都市改造構想による影響が大きいと考える。当時のビル・住宅が密集している東京の状況に加え、公害問題の発生から、東京に緑を取り戻し、オープンスペースを広げようとする働きかけが緑・自然確保のための広場計画に繋がったと言える。

また、1970年代後半から住民が広場づくりに参加するようになる。行政側が積極的に住民のアイデアを広場の設計に取り入れたり、住民運動によって広場がうまれたりした。

1980年代には、引続き駅前広場、防災・避難所としての広場、子供のための広場、緑・自然確保のための広場が計画・建設されるが、駅前広場の計画・建設においては、「駅再開発」に伴う駅前広場づくりが目立つようになってきている。

(2) 「公園」の記事分析

「公園」記事の各記事が出た年代と、その話題を分類した分析対象記事数が3615件である(表5)

表5: 「公園」記事の年代話題別記事数

読み取れる事	②空間を活用するときにどう考えられているか										③ネガティブなことへの対応姿勢からどう考えられているか		④空間の見方や考え		⑤その他	計
	①空間をつくり変えたりする時にどう考えられているか	i 公園計画・拡張・改修	ii 公園に何か新築・増築・建築計画	iii 公園に何か新築・増築・建築計画	iv 公園に何か新築・増築・建築計画	v 公園に何か新築・増築・建築計画	vi 公園に何か新築・増築・建築計画	vii 公園に何か新築・増築・建築計画	viii 公園に何か新築・増築・建築計画	ix 公園に何か新築・増築・建築計画	x その他	災害・事故	注意喚起	安全・管理・防犯	公園観念・意見	
1870	0	13	2	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2	22
1880	7	16	4	0	5	0	0	6	5	2	0	2	0	2	9	56
1890	18	10	2	0	44	2	0	1	68	6	1	2	52	206		206
1900	67	57	10	57	44	23	17	3	80	25	0	8	99	490		490
1910	42	19	10	5	24	17	9	2	46	1	0	2	60	237		237
1920	101	28	13	2	43	36	58	1	77	14	0	11	53	437		437
1930	66	18	2	9	42	18	5	0	49	0	0	17	20	246		246
1940	12	6	0	1	11	7	0	0	14	1	0	2	10	64		64
1950	34	32	1	0	12	5	0	0	32	6	0	1	33	161		161
1960	117	54	0	0	35	10	3	10	65	17	3	17	90	421		421
1970	164	31	0	0	11	3	14	21	39	11	1	10	62	367		367
1980	115	51	0	0	25	5	7	20	35	9	1	11	67	346		346
1990	76	28	0	0	29	19	1	28	41	8	8	11	82	331		331
2000	12	9	0	0	15	4	11	3	35	0	17	29	35	170		170
2010	2	1	0	0	9	0	2	0	25	3	0	11	8	61		61
計	833	373	44	74	351	150	127	100	611	105	31	134	682	3615		3615

各話題の主題の変化を、詳細に内容分析する。紙面の都合上、ここでは「公園」の変遷が最も特徴的に読み取れた、『行事・催し物』のを取り上げる(表6)。

ここからは、1870-1930年代頃の皇室関連行事、1900-1940年代の国家・軍事関連行事、1880-1910年代の娯楽イベントや啓蒙的イベント、1920-30年代の多様な娯楽イベントや子供向け行事、戦争を挟み、1960-70年代の子供向けイベント、1980-90年代の交通安全教室といったように、各時代の公園の主要な使われ方の変遷が見て取れる。

表6: 『公園の行事・催し物』記事内容

年代	記事数	公園の行事・催し物	
		掲載記事に見られる主題	記事内容例
1870	2	陛下御遊幸	上野公園に御遊幸
	2	相撲	
	1		様上げ式
	4		上野公園の博覧会、芝公園能楽堂に行啓
1880	5	展示会、展覧会	海軍造船所開校式、各寺院の什物陳列、水産博覧会、共進会
	2	行啓、行啓	上野公園へ第二次海軍工務博覧会、美術展覧会、赤工職技会
1890	44	相撲	主に芝公園、深川公園にて
	2		東京市庁の開庁式
1900	10	御遊覧、御遊幸	三皇孫殿下御遊覧等
		英国貴賓歓迎	歓迎式場、歓迎式、英国貴賓歓迎に便する種花法文打上計画
	57	日露戦争陸軍の歓迎、祝勝	東郷大将一行前夜歓迎会、陸軍大歓迎会、兵士前夜祝賀祝射等
		外国の艦隊歓迎	英艦隊歓迎、米艦隊来航歓迎
1910	44	演劇会	主に日比谷公園にて
		相撲	
		展示会、展覧会	上野公園にて博覧会
	23		日露戦日回航員歓迎祝賀会、赤十字社総会、帝國水産博覧会、消防出初式、総集會、開園式、噴水式等
1920	10	行啓、行啓	皇太子御行啓、皇太子御行啓、皇太子御行啓、皇太子御行啓
		提灯行列	皇太子御行啓の提灯行列、天皇祝日の提灯行列
		御大葬	天皇御大葬
	5	外国人貴賓の訪問	龍岡殿下の觀音堂と觀音廟見物、皇國待賓歓迎會
1930	24	祭り	納涼祭、花まつり、地鎮祭、東京市道徳祭等
		相撲	主に芝公園にて
		演劇会	日比谷公園にて
	17		消防出初式、優等小学生表彰、大正博上様式等、赤十字社総会、故郷上東京府知事 府君等
1940	13	奉祝会	東宮御奉祝会、皇太子御奉祝会、皇太子御奉祝会、皇太子御奉祝会
	2	外国人元帥・大将の歓迎	ジョージ元帥歓迎提灯行列、ブース大将大歓迎会
		映画	主に日比谷公園にて、陸軍選手権競技大会の映写、映画「欧州飛行」、ノビレ少将墜地遭難映画の後報、中等学校野球大会実況映画等
	43	祭り	納涼大会、ひな祭り、端午祭
1950		演劇会	日比谷公園にて
		競技会、スポーツ	主に芝公園にて、奉祝大会、水上競技大会競泳開水選手選、開港記念運動大会等
		展示会、展覧会	美術展覧会、東京府産業共進会、梅花展覧会、第1回音楽博覧会
	36	子供向け行事	応港運轉博覧会、機械工の大会、防吹飛行に対する市民送別会、上野神田開閉式等
1960	2		天皇陛下の御遊幸御遊幸、天皇節 奉祝
	9	葬儀	日比谷公園にて、浜口首相葬、故武蔵元帥葬儀、東郷元帥の追善
		祭り	有節句の催し物、納涼大会、公園60周年、震災予防博覧会記念地鎮祭、花まつり、さくらまつり等
	42	映画、トーカー	オリンピックニュース映画、映画「漂流の乙女」、短編式の大観劇式トーカー、北支事実ニュース、チャップリン主演「街の灯」等
1970		演劇会	主に日比谷公園にて、日仏軍事隊交歓演劇会、オペラ、公園遊園納涼音楽會等
	18	子供向け行事	学生航空運動助成飛行出発式、ラジオ体操、陸軍防衛演習式、記念植樹奉祝式等
		子供向け行事	児童手芸品展、風船揚げ大会、羽根つき競技会、公園児童會
	1		合同海軍葬
1980	11	展示会、展覧会	第5回大日本海洋美術展覧会、大東亜戦術美術展
		スポーツ	水上運動競技大会、水泳選手権大会、相撲
	7		夏季児童指導會、功勞馬に感謝の會、公園開園の樹入式、國民救急大会等
	1		皇太子さま帰國歓迎會
1990	12		秋の公園祭り、野外人形劇場こけら落とし、盆盆舞、オーケストラ コンサート等
	5		公園遊園児童會、灯籠酒し、ビアガーデン等
		植物の展示会、展覧会	梅花展、花ショウブ展示会、ランと菊の展示、盆栽展等
	35	演劇会、コンサート	サマココンサート、吹奏楽祭等
2000		祭り	日比谷公園60周年記念、納涼大会、彰徳師匠百年祭等
		子供向け行事	公園はねつる大会、母の日日誌、こども會、新春風船揚げ大会、焼き芋パーティー等
	10		野軍の飲食會、植物標本の作り方講習會、児童親子ども會、愛犬交換會等
		演劇会、コンサート	演劇会、ホタル観賞の夕べ、納涼大会等
2010	11	子供向け行事	風船揚げ大会、子供まつり、レクリエーション子供大会
	3		公園100周年記念行事、青空お祭り
	25	祭り	流鏝馬、ファミリーサイクリング大会、東京野現代彫刻展、定輪等
	5		東京みなと祭、ふるさと東京祭り、都市緑化フェア、グリーンフェスティバル、ショウブ祭り、健康フェスティバル等
2020		交通安全教室	自転車利用安全教室、二輪車の教習
		展示会、展覧会	アジサイ展、東京ニューヨークお祭り、絵画展
	29	演劇会、コンサート	演劇会、コンサート
		伝統芸能	定輪、流鏝馬、笛奏、水場の角舞
2030	19		アースデイフェスティバル、こいのぼり、ホームレスたちの「無償供養」、震災サイバールキャンプ等
		交通安全教室	自転車利用安全教室、二輪車の教習
	15		大森博物館の監製、東京モーターショー、ライトアップ、イスタム教徒の礼拝、愛を叫ぶコンサート等
	4		合同就職出陣式、冠婚葬式、尚書の終極を求むるイベント等
2040	9	スポーツ、運動	マラソンスイミング、アーチェリーW杯ファイナル、クオーキングフェスタ

1870-1900年代、上野公園での博覧会、美術展覧会、漆工競技会といった展示会や、芝公園能楽堂での能や狂言の鑑賞が行啓・行幸の目的とされた。日比谷公園では英皇族の来日歓迎式が行われるなど、海外の皇族を歓迎する場でもあったことが分かる。1910-1920年代、日比谷公園や上野公園で皇室の祝い事に伴う行事が多数行われた。数々の奉祝会においては、奉祝の誠意を表そう、或いは余興に熱狂しようと、数万人規模の民衆が集まり、公園は大群衆で埋め尽くされるなど、天皇関連行事が白熱した年代と言える

一方、市民向けには娯楽色の強い相撲や啓蒙的な要素をもつ展示会・展覧会、演奏会が開催され、公園は娯楽の地であり、かつ人びとに教養を与える場でもあったことが考えられる。この時期、行事によって開催される会場が違い、相撲は芝公園、深川公園、浅草公園で、共進会（陶漆器、織物、繭等）、博覧会といった展示会・展覧会は主に上野公園で開催されていた。したがって、芝公園、深川公園、浅草公園は比較的娯楽色の強い公園であり、逆に上野公園は国の発展を示し、かつ啓蒙施設的な役割を担っていた場所であったと考えられる。

1900-1940年代は、国家・軍事関連行事が隆盛した。1900年代は公園における国家・軍事関連行事が最も頻繁に、盛大に行われた時代である。主に日比谷公園、上野公園、浅草公園において日露戦争祝勝会や陸軍歓迎式が催され民衆が多数集まったほか、海外の艦隊を歓迎する場や外交の場ともなっていた。1910年代以降、戦時中にかけて、軍人葬儀や祝賀会、建国祭などが継続的に行われており、政治視線で国民を動員する場として使われている。

1920-1930年代には、展示会・展覧会や演奏会に加え、祭り、スポーツ、映画など、バラエティに富んだ行事が各地の公園で行われており、公園の活用の幅がかなり広まったと言える。子供向けの行事も複数見られるようになり、公園が子供のための場になっていったことも分かる。1940-50年代は戦争により、公園の文化的・娯楽的な行事が少なくなる。

戦後1960年代以降、再び様々な行事が見られるようになり、特に子供を意識した行事が多くなった。小学校対抗の公園はねつき大会や、こども会、レクリエーション子供大会等など、子供向けの催し物が東京各地の複数の公園で行われており、公園に子供を集めようとする動きが見られた。

また、1980-1990年代には、自転車利用安全教室や、二輪車の講習会といった、交通安全教室が見られた。児童の交通事故の減少を目的とした取組みが公園で行われていたことが分かる。

(3) 「空地」の記事分析

「空地」記事の各記事が出た年代と、その話題を分類した分析対象記事数が102件である（表7）。

表7：「空地」の年代話題別記事数

読み取れる事 話題 年代	①空間をつくり変えたりする時にどう考えられているか		②空間を活用するときにどう考えられているか		③ネガティブなことへの対応思考がどのよう考えられているか		④空間の見方や考え方		⑤その他		計
	i 空地指定・建設	ii 空地に何か新築・増築・建築計画	iii 催し物・行事	iv 栽培・耕作	v 事件・事故・災害	vi 空地観念・意見	vii その他				
1870	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1880	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1890	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
1900	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2
1910	0	0	1	0	1	0	1	3	1	3	3
1920	0	5	0	0	6	0	1	12	0	1	12
1930	0	2	1	3	1	0	0	7	0	0	7
1940	12	3	0	29	0	0	3	47	0	0	47
1950	1	2	1	0	2	1	3	10	0	0	10
1960	1	4	1	0	3	0	2	11	0	0	11
1970	1	1	0	0	2	2	1	7	0	0	7
1980	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
1990	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0
2010	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0
計	17	17	4	32	16	4	12	102			

各話題の主題の変化を、詳細に内容分析する。紙面の都合上、ここでは「空地」の変遷が最も特徴的に読み取れた、『空地に何か新築・増築・建築計画』と『栽培・耕作』を取り上げる（表8）。

表8：『空地に何か新築・増築・建築計画』と『栽培・耕作』の記事内容

年代	空地に何か新築・増築・建築計画+栽培・耕作	
	記事数	複数記事に見られる主題 記事内容例
1870	-	
1880	-	
1890	0	
1900	0	
1910	0	
1920	5	ホテル、市営住宅、婦人専門職業紹介所、仮議院工作場、ロシヤ大使館
1930	2	運動施設 ゴルフ場、競技場
	3	食糧・飼料確保のため空地で栽培・耕作 稲播き運動、チシャの栽培、空地で学生集団勤労
1940	3	防空・避難施設 貯水池、待避所、掩体壕、簡易住宅
	29	食糧・飼料確保のため空地で栽培・耕作 学生を動員して飼料を耕作、第二高女と女子師範が空地の作業、隣組の菜園許可を願って活用、空地に甘藷を作ろう、新商売 わしは“開墾屋”だ等
1950	2	校舎、ヤミ建築
1960	4	遊園地、子供の遊び場 遊園地、一時的な子供の遊び場、児童遊園
1970	1	グラウンド
1980	0	
1990	0	
2000	-	
2010	-	

1920年代、空地に建物を建てようとする動きが見られ始め、1930年代になるとゴルフ場や競技場といった、運動施設建設のために空地が使われていた。ゴルフ場については市民の保健と娯楽のためにと東京市が計画し、月島の空地に建設された。競技場については、東京オリンピックに向けての建設であり、敷地候補として多数の

空地が挙げられた。

1939年-1944年において、空地が食糧や飼料の生産する場として栽培や耕作に使用された。敷地の大小に関わらず、空地を一坪も余らぬよう利用していたことから、当時の空地の貴重さが読み取れる。近所の女性らが使われていない空地の地主に無償提供の申入れを行ったり、「隣組」に種苗が配給され地域の周辺住民が空地を耕したりした。

1940-1945年、戦争が激化すると、空地は防空施設や避難地として利用されるようになる。防空貯水池、待避所、掩体壕、戦災者のための簡易住宅が空地に建設されたことが記事から読み取れる。貯水池に関しては、警視庁が防空貯水池等を設置のため遊休空地数、位置の選定などの調査を行い、東京都全域にわたり“遊休空地防空報国運動”を大々的に展開した。空地を、一定の目的に使用の必要を生ずるまで、その所有者の防空的自覚に訴え、自発的に提供してもらうよう働きかけた。

1960年代には、行政の働きかけや、市民の協力によって、空地が遊園地や子供の遊び場となるケースが見られた。荒川区では、商店会によって遊び場のない子供のために空地の一部を買上げて児童遊園地をつくる運動が行われ、板橋区でも、子供たちの遊び場不足を緩和するため、区内の地主たちと空き地借用の覚書を交した。

1970年代以降になると、空地の記事はほとんど見られなくなる。

(4) 「歩行者天国」の記事分析

「歩行者天国」記事の各記事が出た年代と、その話題を分類した分析対象記事数が113件である(表9)。

表9: 「歩行者天国」の年代話題別記事数

読み取れる事	①空間をつくったり変えたりするときにどう考えられているか		②空間を活用するときにどう考えられているか		③ネガティブなことへの対応姿勢からどう考えられているか		④空間の見方や考え方		⑤その他		計
	i 歩行者天国実施・計画	ii 歩行者天国物	iii 事件・事故	iv 規制・取締り	v 歩行者天国中止・廃止	vi 歩行者天国観念・意見	vii その他				
年代	実施・計画	歩行者天国物	事件・事故	規制・取締り	歩行者天国中止・廃止	歩行者天国観念・意見	その他				
1870	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1880	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1890	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1910	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1920	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1930	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1940	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1950	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1960	0	0	0	0	0	0	1			1	
1970	55	8	7	3	5	3	11			92	
1980	1	1	0	1	2	2	2			9	
1990	0	6	0	0	0	0	2			8	
2000	0	0	1	0	1	1	0			3	
2010	0	0	0	0	0	0	0			0	
計	56	15	8	4	8	6	16			113	

各話題の主題の変化を、詳細に内容分析する。紙面の都合上、ここでは「歩行者天国」の変遷が最も特徴的に読み取れた、『歩行者天国実施・計画』と『中止・廃止』を取り上げる(表10)

表10: 『歩行者天国実施・計画』と『中止・廃止』の記事内容

年代	歩行者天国実施・計画・中止・廃止		
	記事数	複数記事に見られる主題	記事内容例
1870	-		
1880	-		
1890	-		
1900	-		
1910	-		
1920	-		
1930	-		
1940	-		
1950	-		
1960	0		
1970	55	実施、実施状況や影響	CO濃度は急低下、同じ道幅がこんなに変わった“歩行者天国” 人々大々…、114万人の散歩等
		計画、実施予告	“歩行者天国”全国に拡大を警察庁が計画、府中でも「歩行者天国」を計画、あすから世界一長い歩行者天国 上野-新橋等
		銀座、新宿、浅草、池袋の歩行者天国について	
1970	5	混乱が予測されるため中止	沖野国会の実力阻止を叫ぶ過激派集団による「東京騒動闘争」を見越して中止、参院選投票日前日は危険防止のため中止
		八王子の歩行者天国廃止	東京都で初の歩行者天国廃止
1980	1		銀座-上野間のホコ天復活
	2	混乱が予測されるため中止	参院選投票日前日、年末年始
1990	0		
2000	1		原宿・上野の歩行者天国廃止
2010	0		

1970年代、銀座、新宿、浅草、池袋を皮切りに、各地で歩行者天国が計画・実施され、それまでバスやトラック、車が走り、排気ガスが蔓延していた場所に歩行者空間が生まれた。歩行者天国の記事数や記事の内容から、世間の関心度の高さがうかがえる。上記の4地区において歩行者天国がスタートした初日には、合計78万5千人の人出であったと報じられている。その後、渋谷、上野、多摩など、続々と各地区に広まりを見せた。また、初めは多くの地区において、日曜・祝日の午後には車両の締出しが行われたが、1973年ごろから土日・祝日で実施、時間延長、区間延長といった歩行者天国の拡大が複数の記事より確認できる。

一方、1970年代後半から、歩行者天国による他の通りの交通量の増加・渋滞や、道路利用者によるゴミ問題・騒音問題が原因となり、歩行者天国が廃止になる通が見られた。また、1979年から、年末年始や参議院選挙前日といった、多くの人出で混乱が予測される日は歩行者天国を中止しようとするケースが出てきた。

1980年代以降は、1970年代のような関心の高さ、盛り上がりは見られなくなった。

4. 考察

「広場」「公園」「空地」「歩行者天国」記事の分析

結果を基に、話題の変遷を全体像として図1に整理した。
 まず、各キーワードの特徴や傾向から、各空間がどのような“場”であったのか、行事内容や空間の整備・管

理状況等から考察する。次に、各空間の変遷を比較し、各場所の特徴や関係性を考察する。

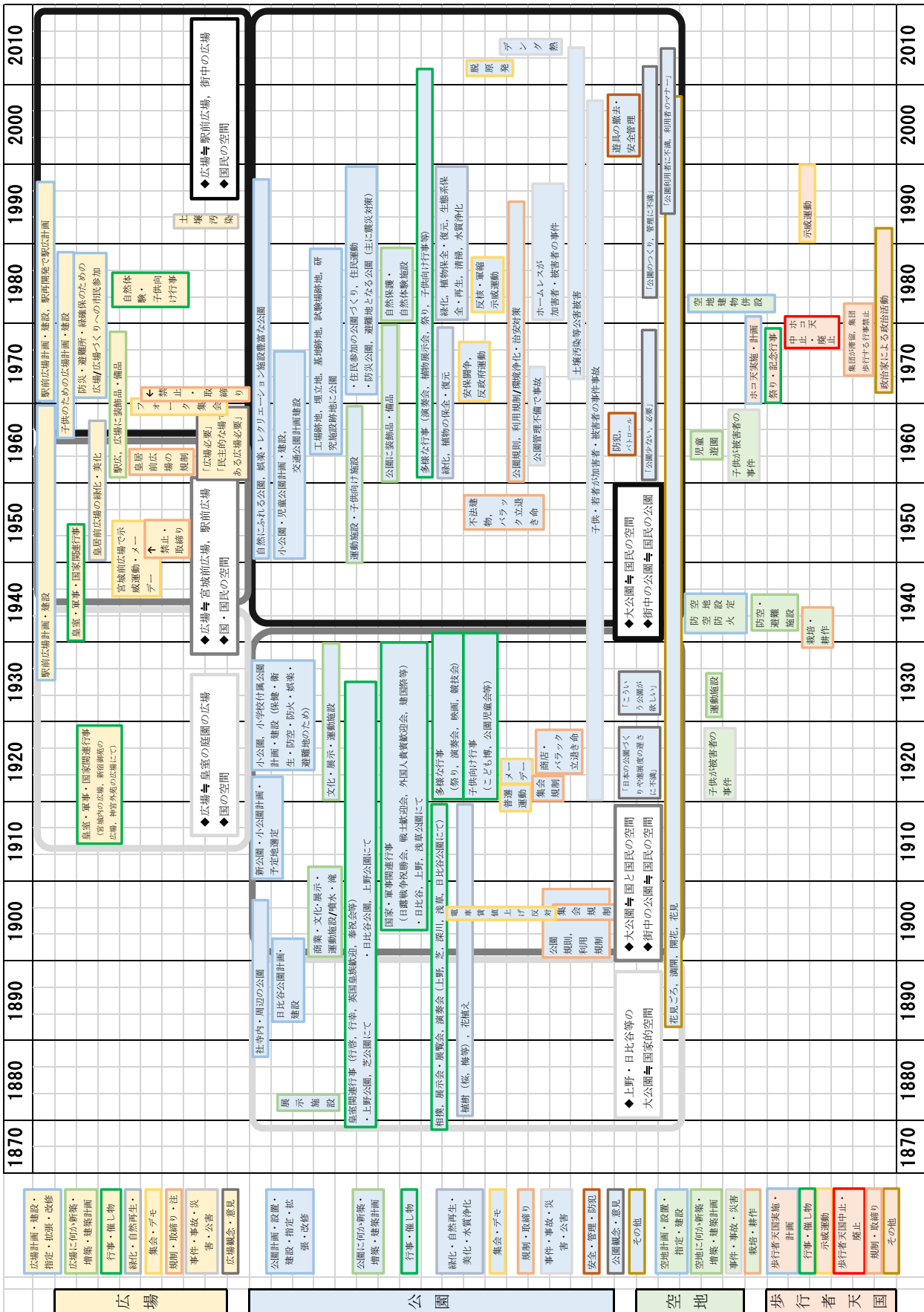


図1：「広場」「公園」「空地」「歩行者天国」の話題変遷図

(1) 各場所の変遷の特徴

a) 広場

1910年代から1940年代までは、広場と言えば、宮城前広場、新宿御苑広場、神宮外苑広場といった皇室に關係の深い場所を中心に整備され、これらは皇室関連行事、軍事・国家関連の行事に特化して使われた。国民のための広場というよりは、国家的空間であり、皇室が使う場、国や軍隊の勢力をアピールするための場に、国民が大勢観覧しに行く形で集合・動員されていた。

1930年代中盤より、交通の発展に伴い駅前広場が建設され始める、車両や人びとで駅が混雑していた時代、駅前広場はその緩和を主目的とした機能的空間に終始していた。

戦後、宮城前広場において倒閣国民大会やメーデーが開催され、皇室や国家の場であった空間は国民が雑踏し、意見を主張する場として大衆化が始まる。それに対して政府は強い反感を表し、1950年代前半にはデモ・集会の主権者側と政府側の「皇居前広場をめぐる争い」が始まり、以降集会活動は見られなくなる。さらに1960年代には皇居前広場の「芝生全面立入禁止」や「環境浄化の取り締まり」が行われるなど規制が強化した。広場の大衆化と規制管理とのせめぎ合いの様相が見られる。

その後、市民による大規模な示威運動が広場において見られたのは1969年の新宿西口地下広場における反戦フオーク集会であった。広場が国民の空間となりつつあったが、これもまた政府・警察側によって規制・取締りが強引な形で行われ、意見を主張するための場としての性格は失ってしまった。

広場づくりに関しては、1960年代より駅前広場に特色や美観を加えるための装飾品や備品が設置される動きが見られた。そして、1970年代より駅前広場計画を駅の再開発に伴って行う事例が出てくる。交通処理だけでなく、歩行者の安全性・快適性を確保するための場となった。また、それまで広場づくりといえば駅前広場が中心であったが、1960年代後半より「子供のための広場」、1970年代より「防災・避難所・緑確保のための広場」が街中に出来ていく。広場が、人口増加や都市化によって遊び場を失った子供たちを収容する場であり、地震等の災害対策、公害対策として利用される場になってきたと考えられる。

b) 公園

1873年布達の太政官布告第十六号以降、上野、芝、浅草公園を中心に「公園といえは社寺等に立地するもの」といった認識が1900年代まで続いたと推測する。ここでは江戸期に続いて、桜や梅が植樹され、遊樂する場であった。一方、上野公園には博物館・新聞縦覧所といった展示施設が現れ始め、市民に教養を与える啓蒙装置の場

として整備しようとする動きがあったと考えられる。日比谷公園や浅草公園にも展示施設、商業施設、文化・展示施設、運動施設や噴水・滝といった装飾物がつくられるなど、公園の活用の幅が非常に広がっていった。公園が人びとにとって憩いの場であると同時に、政治視線としては芸術的・文化的教養を身につけさせ、さらに体育を図らせる場であった。新しく整備されていく公園は、国民の公共の空間というよりは、“国から与えられた空間”という意味合いが強かったと考えられる。

1900年代になると、公園は日露戦争祝勝会や陸海軍の歓迎会で賑わう。公園は、国の戦勝を喜び合う場、戦争から戻った兵士を称える場となった。さらにこの時代、公園が「電車賃値上げ反対」を訴える示威運動の場となる。日露戦争の勝利によって、公園は、国民が感情を共有し、露呈する場であり、国民が主体となって集まる場となった。しかし、示威運動に関しては、政府・警察側の規制によって1年ほどで収束してしまう。公園が国民に開かれた空間となっていく一方で、公園規則・公園利用規制、集会・デモの禁止・警戒などで、公園を管理・統制しようとする動きが見られる。

1910年代になると、立地に社寺が関係しない、一からつくる新しい公園の計画・建設が始まり、1923年の関東大震災後、災害時における公園の重要性が高まり、特に小公園の計画・建設が活発的となる。公園が、防空・防火、避難地の場としても評価されるようになり、市民に近い存在になったと考えられる。

1920、30年代には、国民に向けた多様な行事が各地の公園で催され、普選運動・メーデーといった示威運動も再び見られることから、公園が国民の場になったと言える。また、公園における子供向けの行事が増えたこと、公園で子供や若者が被害者・加害者となる事件事故が見られ始めたことから、公園が子供・若者の集まる場として定着し始めた時代といえる。対して、皇室関連行事や軍事・国家関連行事は、1940年代からはほとんど公園において行われなくなる。1880、90年代に見られた、国の空間、国から与えられた空間、であった公園の姿は、1930年代までで収束していったと考えられる。

1940年代は第二次世界大戦の影響により、公園の空間利用が非常に少なくなるが、1950年代からは再び公園づくりが活発になっていく。特徴としては、自然に富んだ公園づくり、娯楽・レクリエーション施設が充実した公園づくりが見られ始め、その傾向は1960、70年代においてさらに加速していく。加えて子供の遊び場不足から、子供向けの小公園・児童公園・交通公園が、工場跡地、埋立地を活用してまで増設された。急速な都市化によって、ビルが建ち並び、コンクリートで地面が覆われ、自動車が増加していった時代、公園はそうしたものから解

放され、自然にふれることが出来る、貴重な場であったと考えられる。

また1960年代より、公園管理不備による事故や子供・若者の事件事故の発生、集会・デモの過熱化によって、公園の防犯が強化されたり、公園規則・利用規制の強化、環境浄化・治安対策が行われたりするようになる。公園が国民のための場となり、公園数・公園利用者数の増加や活用の幅も増加していったが、その分公園における事件や事故、反乱といった政府・警察側にとって不都合な事象が発生したことで、公園は“管理空間”という性質を強めていったと推測する。

c) 空地

一方、特に利用目的を持たずに存在していた「空地」は、1940年代の戦時には、空襲からまちの延焼を防ぐ空間、また食糧難対策の栽培・耕作が行われる場となった。1960年代の子供の遊び場不足の際には公園広場の代替として機能したりと、都市空間の補完的な役割を担っていた。しかし、1970年代以降は子供が空地に集まるといった傾向は見られなくなり、安全の観点から公園・広場といった管理空間に徐々に吸収されていった。

d) 歩行者天国

「歩行者天国」は1970年代に一気に各地の通りに現れ、自動車公害の緩和や交通事故の防止対策の場であった。さらに利用者にとっては、公害や交通事故の危険から解放される場であったと推測する。歩行者天国の空間利用としては、祭りや様々な催し物やパレードで賑わった。多いときは数十万人規模の人びとが集まるこの空間は、演説や選挙運動の恰好の場とされ、政治家による政治活動の場としても活用された。

しかし、1970年代後半より、「集団が滞留する恐れがある行事」や「集団が同じ目的をもって歩く集団歩行行事」を好ましく思わない価値観が生じ、利用者側の物珍しさも消えて、さらに他の通りの交通量増加や、利用者によるゴミ問題・騒音問題から歩行者天国づくりは沈静化していった。

(2) 各場所同士の関係性

まず、他の空間と比べ、「公園」は時代のニーズに応えた空間づくりが目立つ。関東大震災後では、防火や避難地確保のために小公園が増設され、1950～70年代では、都市化によって、遊び場を失った子供を収容する児童公園が建設された。また、1950年代より、余暇時代に合わせ娯楽施設が充実した公園づくりが見られるなど、公園は社会的要請を吸収する場であったと考えられる。

次に、「広場」と「公園」は時代とともに空間が大衆化していき、市民の利用の幅が広がったが、その分取締りも多く受け、利用者与管理側の対立が何度も発生

した場であり、管理空間にしようとする働きかけが確認できる。

特に利用目的を持たずに存在していた空地は、都市空間の補完的な役割を担っていたと言える。例えば、戦時中の食糧不足時は栽培・耕作の場へと変化し、1960年代の子供の遊び場不足の際は、広場や公園に姿を変えた。しかし、60年代に広場などの管理空間として吸収されたことで、都市の余白であった空地はなくなっていったと考えられる。そうした中で余白空間を一時的に生み出す歩行者天国という場が出現したと解釈できる。

5. 結論

(1) 研究成果

明治期から現代までの新聞記事から、「広場」「公園」「空地」「歩行者天国」の時代ごとの状況や使われ方、イメージなどの変遷を明らかにした。大きなポイントとしては、公園空間の大衆化、広場空間の大衆化、空地空間の管理空間化、歩行者天国の目的と変化、である。

これらの4空間の変遷を比較することで、各空間の独自性や、空間同士の関係性を見出した。時代のニーズに応じてつくられる公園空間、広場・公園空間の大衆化に伴う空間の規制、都市空間の補完的役割を担っていた空地の存在が挙げられる。

(2) 今後の課題

ニュースにならないような日常の出来事がわかる資料による補足（写真、日記、評論など）や、対象新聞を広げ、より精度の高い変遷とすること、また、日本史や通史など他資料（社会背景史、設計技術・デザイン史など）との照合によって整合性を確認する必要がある。

参考文献

- 1) 荻原知子：都市再開発が生み出す公的空間の現代的性格—ディストピア化する都市の空間の条件、景観・デザイン研究講演集、No.12、pp.158-166、2016
- 2) 古田崇・天野光一：駅前広場空間の設計思想及び手法に関する史的研究、土木史研究、第10号、pp.277-287、1990
- 3) 杉田早苗・土肥真人：市区改正期から戦災復興期までの公園・緑地計画標準に関する研究、ランドスケープ研究、65(5)、pp.763-768、2001
- 4) 齋藤直人・十代田朗・津々見崇：公開空地・有効空地の計画コンセプトと利用実態に関する研究、都市計画論文集、43.3巻、pp.223-228、2008
- 5) 金子忠一：わが国における都市公園管理関連制度の変遷に関する基礎的研」、造園雑誌、54巻5号、pp.317-322、

1990

- 6) 平松宏基：長浜市中心市街地における空地の位置づけと変遷に関する研究，日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集，16巻，pp.45-48，2018
- 7) 中村周・安森亮雄・三橋伸夫：地方都市の中心市街地の街区における空地形態と其の変化-栃木県宇都宮市を事例として-，日本建築学会計画系論文集，第80巻716号，pp.2243-2251，2015
- 8) 西山弘泰：新聞記事が描く戦後上野公園，文学研究論集，第25号，pp.185-207，2006
- 9) 大竹 芙実・下村彰男・山本清龍：近代以降の都内の催事にみる都市公園の社会的位置付けの変遷，第129回日本森林学会大会学術講演集原稿，2018
- 10) 朝日新聞：聞蔵Ⅱ ビジュアル「朝日新聞縮刷版1879～1989」
<https://database.asahi.com/library2/login/login.php>